

○大学卒程度技術（造園）専門試験問題例

問1 造園樹木の植栽に使用する支柱に関する次の記述A～Dのうちには妥当なものが二つある。それらを選んでいるのはどれか。

- A. 布掛け支柱は、寄植えや植込みに使用されており、取り付けに際しては、樹木を相互に連ねて丸太や竹を水平に渡して結束する。
- B. 添え木は、高木類を支えるのに適しており、取り付けに際しては、樹木の幹に添えて丸太などを地中に十分挿し込んで立て3箇所ほど幹に結束する。
- C. 鳥居型支柱は、街路樹に多く使用されており、取り付けに際しては、丸太の元口を下にし、丸太と丸太の接点をくぎ打ちで鉄線掛けとする。
- D. 八つ掛け支柱は、低木類を支えるのに適しており、取り付けに際しては、3本の丸太を、樹木の高さの半分地点に、高さを揃えて幹に結束する。

- 1. A, B
- 2. A, C
- 3. B, C
- 4. B, D
- 5. C, D

問2 都市公園内に「都市公園法に基づく公園施設」としては設置できないものは次のうちではどれか。

1. 耐震性貯水槽
2. 井戸
3. メリーゴーラウンド
4. 保育所
5. 動植物の保護繁殖施設

問3

2020年に始まったコロナ禍は、テレワークやオンラインコミュニケーションツールの活用が進むなど、社会における人々のライフスタイルに大きな変化をもたらした。より豊かに生活することや多様な暮らし方・働き方を実現することが重要視され、人中心の社会への期待が一層高まっている。

そのような社会を実現するために、デジタル技術の重要性が再認識され、あらゆる領域において、その技術を活用した課題解決が進められている。

公園やみどりの分野においても、デジタル技術やデータを活用し、公園管理者が業務を効率化することによる市民サービスの向上など、公園のポテンシャルをより一層発揮する取組となるDX*（デジタルトランスフォーメーション）の推進が求められている。

例えば、公園の整備・管理運営への応用、又は新たなサービスを提供する社会実験の場としての活用、さらには公園の利活用・管理運営の変革などがあげられる。

DXは新たなユーザーやステークホルダーの獲得が期待できるなど、様々な可能性を秘める方策である。デジタル技術やデータを活用することで、どのようにして公園やみどりのもつ豊かなポテンシャルを一層引き出すか、あなたの考えを述べ、実現するための具体的な方策を提案しなさい。（800字程度）

*企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること（経済産業省）「デジタルガバナンス・コード2.0」

1. 記入は必ず、次の要領によって行ってください。
 - ①記入は全て、答案用紙の枠内に収まるようにしてください。
 - ②答案用紙は横書きに使用してください。
2. 氏名を伏せて採点しますので、解答欄には具体的な学校名、会社名、個人名などは記入しないでください。